

小専社会第 5 回「地理院地図とハザードマップでみる身近な地域の自然災害」の作業

地理院地図の水害の履歴を表す地図の凡例

- 昭和25(1950)年9月降雨 (ジェーン台風)
- 昭和36(1961)年9月降雨 (第2室戸台風)
- 昭和42(1967)年7月降雨(昭和42年7月豪雨)
- 昭和47(1972)年7月降雨(昭和47年7月豪雨)
- 昭和57(1982)年8月降雨(台風10号)
- 平成7(1995)年7月降雨(大雨)

作業の手順

- ①PC で、「Google Earth で見える地図教材のページ」の「地域学習」のページを開いて、「水害履歴」と記された紫のボタンをクリックする。 そうすると、地理院地図が開いて、大阪府中央部の水害の履歴を表す地図（凡例は右の通り）と市区町村の境界線（黒線）が表示される。
- ②表示された水害の履歴を表す地図を見て、1950 年 9 月降雨（ジェーン台風）および 1972 年 7 月降雨について、市ごとに（大阪市と堺市は区ごとに）、それぞれの水害時の浸水の有無を読み取り、浸水があった市区を、図 1 および図 2 に青鉛筆で塗る。
- ③「Google Earth で見える地図教材のページ」の「地域学習」のページの、「ハザードマップ」と記された紫のボタンをクリックする。 そうすると、重ねるハザードマップが開いて、洪水による想定浸水深が表示される。
- ④表示された想定浸水深を表す地図を見て、浸水が想定されている市区を、図 3 に青鉛筆で塗る。
- ⑤色を塗った図 1～図 3 を見て、それぞれの浸水が、外水氾濫、内水氾濫、高潮、のいずれによって引き起こされたものかを考えて、その理由とともに、図の下の () に記す。 また、外水氾濫、内水氾濫、高潮に対して、どのような対策がなされているかを考えて、図の下の () に記す。

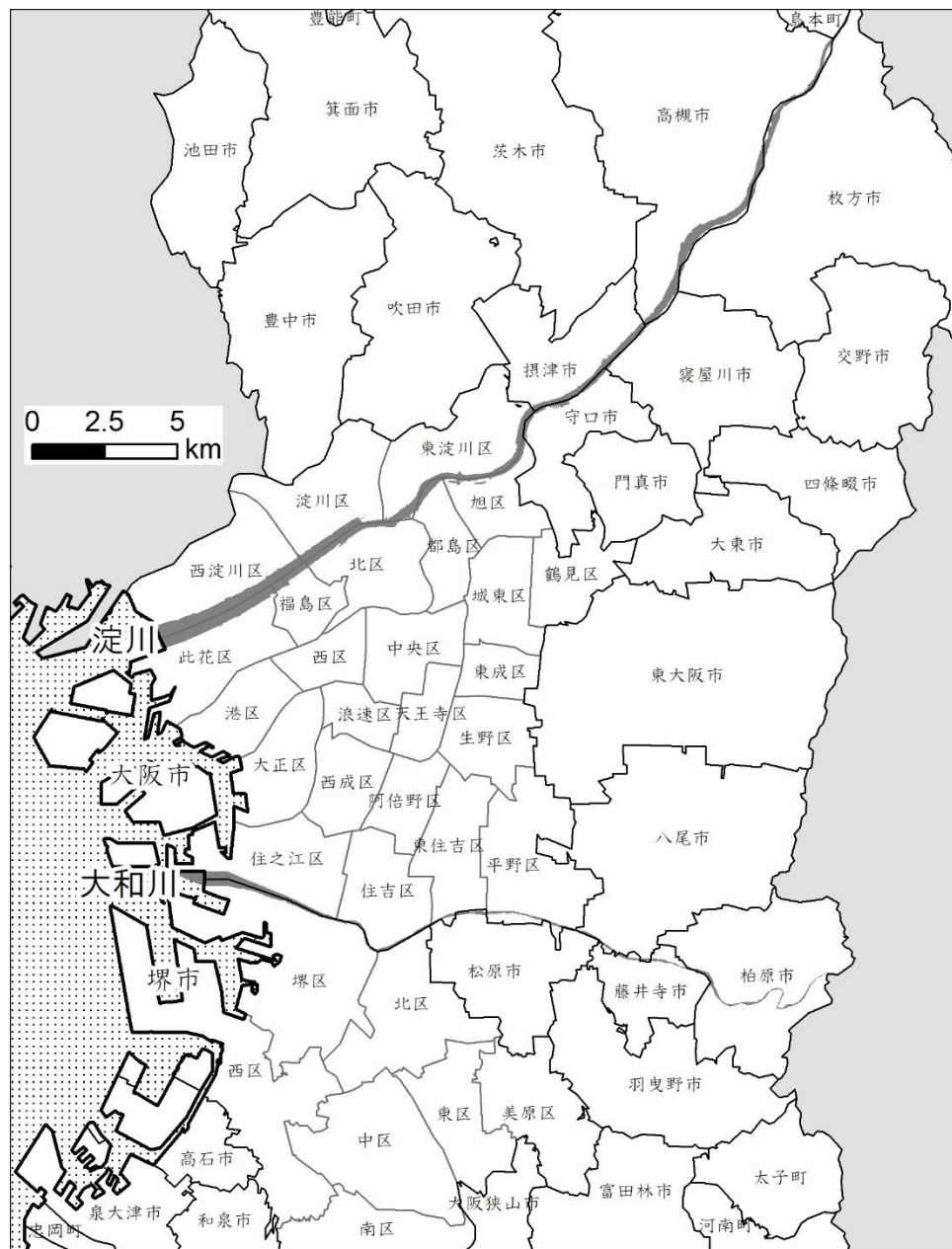


図 1 1950 年 9 月降雨（ジェーン台風）によって浸水した市区

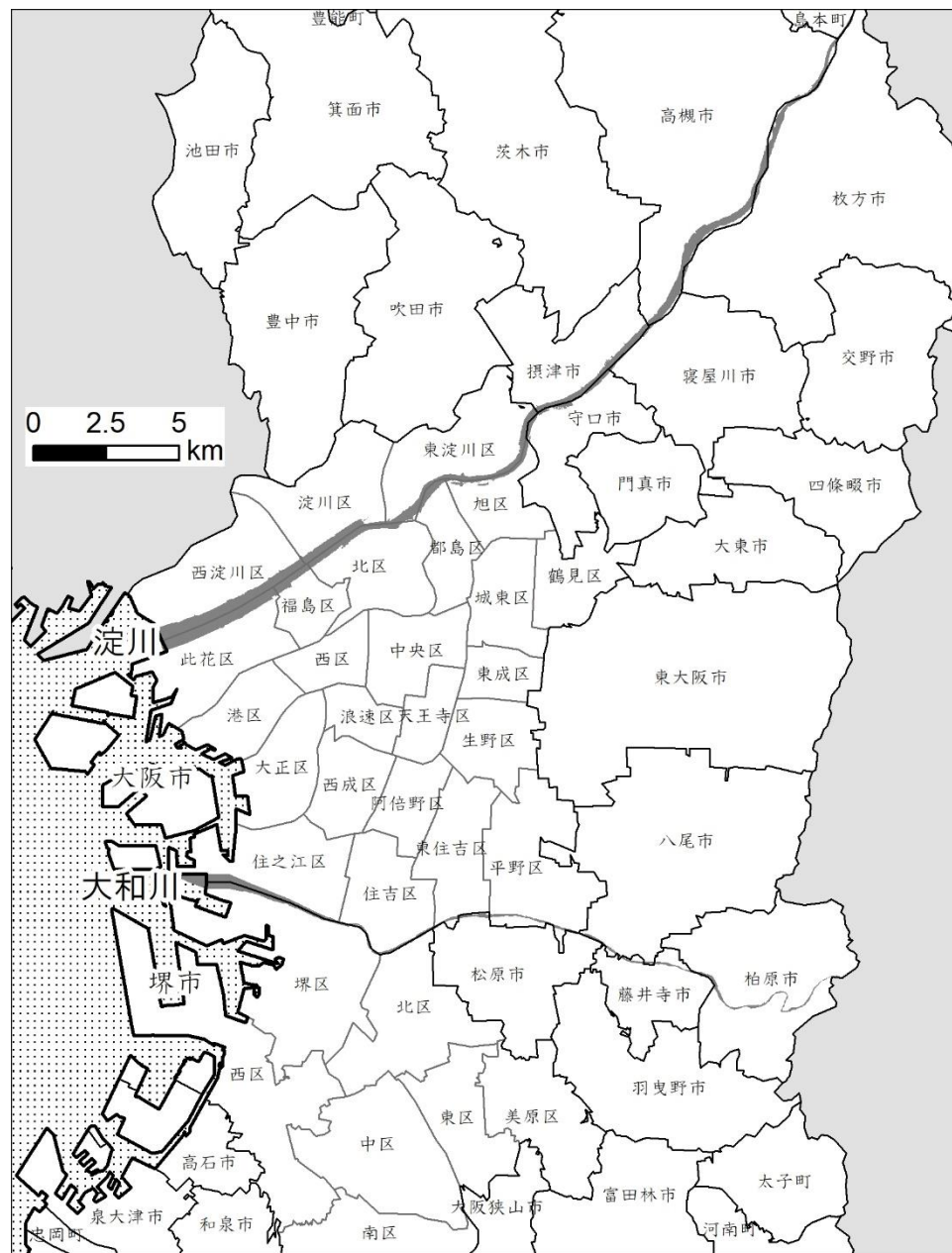


図 2 1972 年 7 月降雨によって浸水した市区

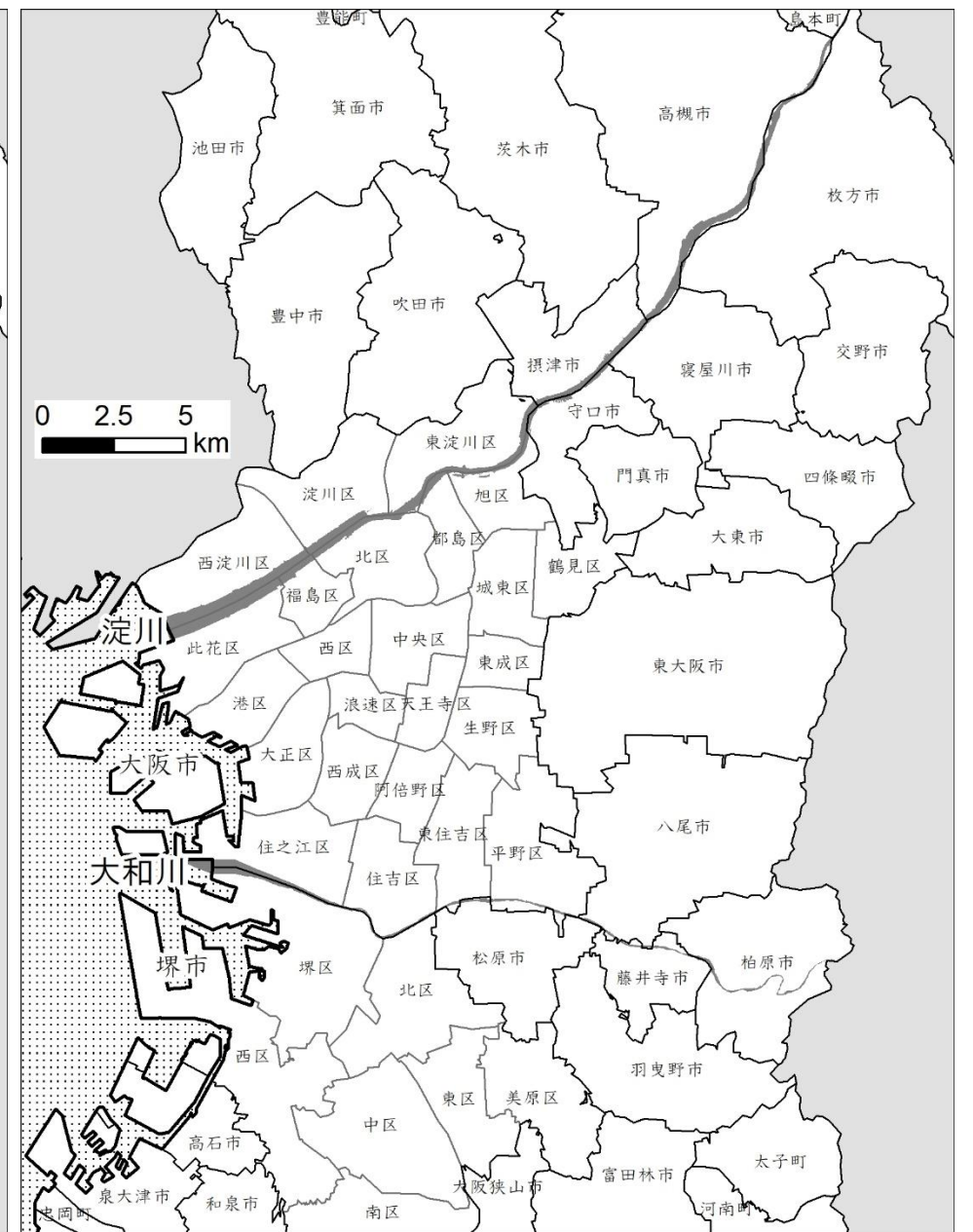


図 3 ハザードマップで浸水すると想定されている市区

() () () ()